

## 研究主題

# 人権教育に関する研究

—生命尊重の視点に立った全教育活動を通しての人権教育の工夫—

## 目次

I	研究の背景とねらい	26
II	研究の方法	27
III	研究の内容	
1	基礎研究・調査研究	
(1)	基礎研究	27
(2)	調査研究	28
2	生命を尊重する態度を育成するための視点と指導事例	
(1)	学校段階ごとの指導の重点と指導事例	29
(2)	生命を尊重する態度を育成するための視点ごとの指導事例	30
3	授業研究	
(1)	指導計画作成上の留意点	36
(2)	段階を踏まえた指導の工夫	36
(3)	検証授業	37
IV	研究の成果と課題	
1	研究の成果	46
2	今後の課題	46

### ＜研究の成果と活用＞

#### 1 生命を尊重する態度を育成するための視点の明確化

- 生命を尊重する態度を育成するための視点として、「生命の大切さの理解」「共に生きる心の育成」「規範意識の形成」「偏見・差別意識の解消」を設定した。
- これらの視点を指導の重点として指導計画に位置付けることにより、全教育活動を通じた人権教育において、生命を尊重する態度を育成するための指導を、より有効なものにすることができる。

#### 2 生命を尊重する態度を育成するために有効な指導事例の提示

- 生命を尊重する態度を育成するための視点における学校段階ごとの系統性を踏まえ、各学校段階における実践事例を整理して示した。
- 生命を尊重する態度を育成する視点ごとに指導事例を整理し、具体的に示したことで、各学校において、児童・生徒に生命を尊重する態度を育成するための教育活動の具体的な推進の一助とする。

## I 研究の背景とねらい

東京都教育委員会では、国が策定した「人権教育・啓発に関する基本計画」、「東京都人権施策推進指針」等に基づき、教育目標及び基本方針1を踏まえて、

- ・児童・生徒等に人権尊重の理念を正しく理解させ、同和問題をはじめ様々な人権課題についての正しい理解と認識を深めさせること。
- ・自他を尊重する心情や態度をはぐくみ、自らの問題として偏見や差別の解消に努めることのできる能力や態度の育成を図ること。

を目指して、人権教育を推進している。

しかし、最近、児童・生徒による人の生命にかかわる重大な事件も発生しており、各学校においては、全教育活動を通して、生命尊重に関する指導の内容や方法を工夫し、かけがえのない生命を尊重することについて深く考え、理解させる指導の徹底が求められている。

こうした現状から、これまでの東京都教育委員会の施策・提言を踏まえ、生命尊重の態度を育成するために、全教育活動を通して人権教育を推進することが重要と考え、研究主題を、「生命尊重の視点に立った全教育活動を通しての人権教育の工夫」とした。

研究を推進するに当たり、本研究では研究仮説について以下のように設定した。

### 仮説

生命尊重の視点に立った人権教育の工夫を行えば、児童・生徒の自他を大切にす  
る人権感覚を育て、人権尊重の精神を高めることができるであろう。

そして、育てたい児童・生徒等の姿を

「かけがえのない自他の生命を尊重し共によりよく生きる児童・生徒等」

※児童・生徒等とは、幼児、児童、生徒、高等専門学校の学生をいう。

と設定した。

「かけがえのない自他の生命を尊重し」とは、「自分の大切さとともに他の人の大切さを認める」という人権尊重の理念を受け、「『自分の命も他の人の命もかけがえのない大切なものであるということ』を理解するだけでなく、それが態度や行動に現れるようにすること」、そして、「共によりよく生きる」とは、「自他の違いやよさを認め合い、思いやりの心や規範意識をもつこと」ととらえ、こうした児童・生徒等を育てることを目指して研究に取り組むこととした。

また、研究のねらいを、

- ① 学校における全教育活動を通して、児童・生徒等に、「生命を尊重する態度を育成するための視点」を明らかにする。
- ② 児童・生徒等に、「生命を尊重する態度を育成するための視点」に基づいた有効な指導事例について整理し、具体的に提示する。

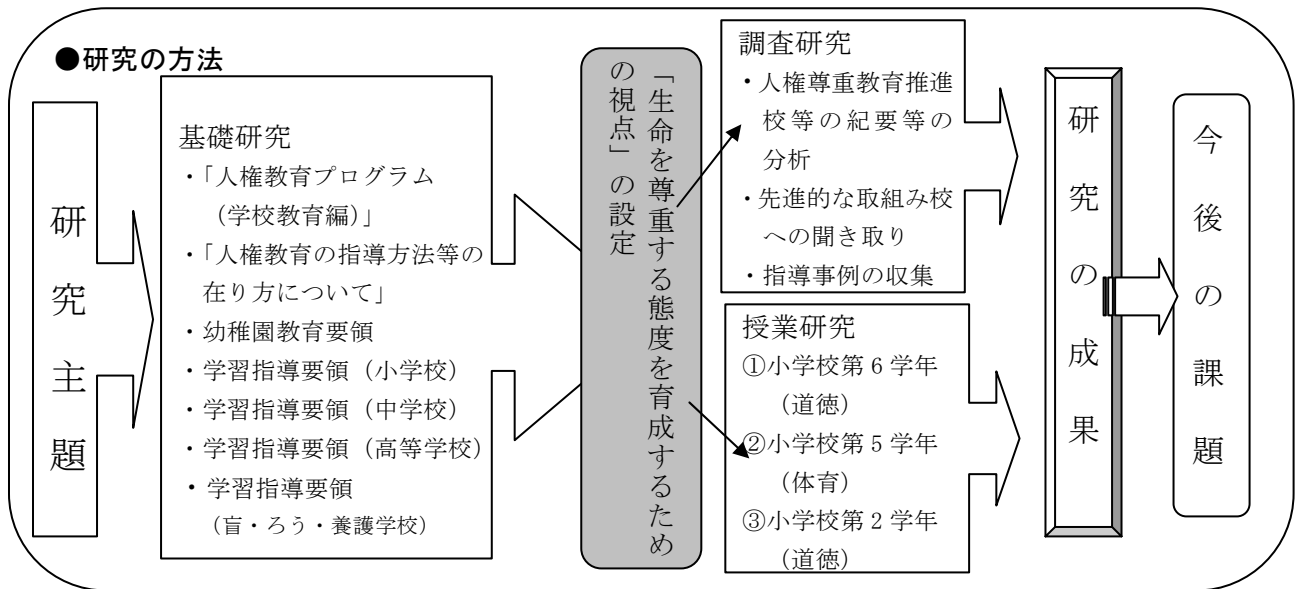
とし、「生命尊重の視点に立った人権教育推進のためのリーフレット」を作成することにより、その研究成果を普及させるものとした。

## II 研究の方法

本研究では、「生命尊重の視点に立った全教育活動を通じた人権教育の工夫」について明らかにするために、まず基礎研究により、「生命を尊重する態度を育成するための視点」を設定した。

次に、調査研究として、この視点に沿って、全校種の全教育活動における実践事例を見直し、学校段階ごとの指導の重点と有効な指導事例についてまとめた。

また、授業研究として、小学校における道徳の時間と体育（保健領域）において検証授業を行い、視点と指導の工夫の有効性について実践を通して検証した。



## III 研究の内容

### 1 基礎研究・調査研究

#### (1) 基礎研究

はじめに、東京都教育委員会の教育目標と基本方針をはじめ、「人権教育プログラム（学校教育編）」「人権教育の指導方法等の在り方について」「幼稚園教育要領」「学習指導要領」等の内容を分析し、「生命を尊重する態度を育成するための視点」とは何かを検討した。

東京都教育委員会の教育目標には、「互いの人格を尊重し、思いやりと規範意識のある人間、社会の一員として、社会に貢献しようとする人間の育成」が示されている。

また、東京都教育委員会の基本方針に基づく平成18年度の主要施策の基本方針1（1）には、人権尊重の理念を広く社会に定着させ、あらゆる偏見や差別をなくすこと、（4）には、自他をいつくしみ生命を大切にすること、（6）には、規範意識や自立心を育成することが大切であることが示されている。

また、「人権教育の指導方法等の在り方について」では、児童・生徒等に、「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」ができるような人権感覚を身に付けさせるためには、学級や学校の中で、児童・生徒等が、一人の人間として大切にされているということを感じ取れるようにすることが大切であり、他の人と共によりよく生きようとする態度や集団生活における規範等を尊重し、義務や責任を果たす態度、具体的な人権問題に直面してそれを解決しようとする実践的な行動力などを身に付けさせることが重要であることが示されている。

このようなことから、人権教育を通して、生命を尊重する態度を育成するためには、人権尊重の理念についての正しい理解を基本とし、生命の大切さについての理解や他の人と共によりよく生きようとする態度、規範を尊重し、義務や責任を確実に果たす態度や偏見や差別の解消に努める態度を身に付けさせていくことが重要であるととらえた。そこで、本部会では、生命を尊重する態度を育成するための視点を次のように設定した。

生命を尊重する態度を育成するための視点

- ・生命の大切さの理解
- ・共に生きる心の育成
- ・規範意識の形成
- ・偏見・差別意識の解消

各視点の概念規定については次のようにとらえた。

生命を尊重する態度を育成するための視点	概念規定
生命の大切さの理解	生命がかけがえのないものであることを理解し、自他の生命を尊重する態度を育成すること
共に生きる心の育成	互いを尊重し、支え合いながら、共によりよく生きようとする態度を育成すること
規範意識の形成	義務や責任について理解し、正しい判断の基に行動しようとする態度を育成すること
偏見・差別意識の解消	同和問題をはじめ様々な人権課題について正しい理解と認識を深め、あらゆる偏見や差別をなくそうとする態度を育成すること

(2) 調査研究

生命を尊重する態度を育成するための視点に基づき、有効な指導事例について具体的に提示するために、初めに生命を尊重する態度を育成するための視点に沿って、幼稚園教育要領と学習指導要領に示された内容を、学校段階ごとに整理した。

(表1)は、幼稚園教育要領と学習指導要領の内容から、生命を尊重する態度を育成するための視点と関連する主なものを抜粋し、各学校段階における発達段階を踏まえて、各視点ごとに整理したものである。

表1 幼稚園教育要領と学習指導要領の内容と生命を尊重する態度を育成するための視点との関連

	幼稚園	小学校	中学校	高等学校
生命の大切さの理解	生命を大切にすることを芽生えさせる。	自他の生命を尊重する心を育てる。	自他の生命を尊重する態度を身に付けさせる。	倫理的な見方、考え方を身に付けさせる。
共に生きる心の育成	自分の生活に関係の深い人に親しみをもたせる。	温かい心で、心のこもった接し方ができるようになる。	だれに対しても公正・公平に努めさせる。	主体的に判断、行動し、積極的に自己を生かすようにする。
規範意識の形成	他者とのかかわり合いの中で、きまりの大切さに気付かせる。	きまりを守る態度を育て、権利と義務を大切にする精神を身に付けさせる。	法やきまりを遵守することについて自覚をさせる。	民主社会において自ら生きる倫理について自覚を深めさせる。
偏見・差別意識の解消	思いやりの心をもって行動しようとする態度を育てる。	偏見・差別に気付き、公平で公正な態度を養う。	人権課題の歴史的・社会的背景について正しい理解と認識を深めさせる。	人権課題について正しい理解と認識をより一層深めさせる。

この表から分かることは、生命を尊重する態度を育成するための学校段階ごとの指導には、系統性があることである。例えば、「生命の大切さの理解」については、幼稚園では生命を大切に作る心の芽生えを育て、小学校では自他の生命を尊重する心を育てること、中学校では生命を尊重する態度を身に付けさせること、さらに高等学校では倫理的な見方・考え方を身に付けさせるといった行動化をねらいとしている。

このように、生命の大切さの理解についての指導では、幼稚園から高等学校までの指導のねらいに系統性があることが分かる。

また、この他の「共に生きる心の育成」「規範意識の形成」「偏見・差別意識の解消」の視点についてもまとめた結果、指導のねらいには、幼稚園から高等学校までの系統性があることが分かった。

## 2 生命を尊重する態度を育成するための視点と指導事例

### (1) 学校段階ごとの指導の重点と指導事例

本研究では、人権尊重教育推進校をはじめ各学校や区市教育委員会で実践されている人権教育の実践事例を収集し、生命を尊重する態度を育成するための視点ごとに指導事例を分類し、整理した（表2①、②）。さらに、「人権教育プログラム（学校教育編）平成15年3月～平成17年3月」の3冊に掲載された指導事例について分析したものを加味し、「生命を尊重する態度を育成するための視点と指導の重点（表3）」としてまとめ、リーフレットに掲載した。また、（表3）には各指導事例の上段に幼稚園教育要領や学習指導要領から分析した指導の重点を併記したことにより、指導事例に、より一層の普遍性をもたせ、幼稚園や学校が活用しやすいものとなるよう配慮した。

表2① 区市町村教育委員会の取組一覧表

	人権教育にかかわる取組み	生命	共に	規範	偏見
実践事例	ウサギとのかかわり（幼）	○			
	ザリガニの脱皮（幼）	○			
	保育園との交流（幼）		○		
	なかよし班活動（小全）		○		
	あしたへジャンプ（小2・生活）	○			
	思いきって（小2・道徳）				○
	まるちゃん大好き（小3・道徳）		○		
	いっしょに働こう（小3・社会）		○		
	手と心で読む（小4・国語）				○
	えがおが見たい（小5・道徳）				○
	みんな協力しよう（小5・道徳）				○
	どちらを選びますか（小5・国語）		○		
	人権強化月間（中全）				○
	人類的課題をみつめて人権の名づけをしよう（中1・社会）				○
	千の風になって（中2・道徳）	○			
	望ましい人間関係を築くために（小5・道徳）		○		
	ともだちとなかよくしよう（小2・学級活動）		○		
	言葉の使い方を考えよう（小3・特別活動）		○		
	教えておじいさん、おばあさん（小3・総合）		○		
	障害のある人といっしょに（小4・総合）		○		
何ができるかな〇〇小の弟や妹たちに（中・総合）			○		
部活動での人権に配慮した指導（中）			○		
保健室での取組み			○		
障害のある人の生き方から学ぶ（中・社会）				○	

表2② 生命を尊重する態度を育成するための視点に基づいた人権尊重教育推進校における実践事例分析一覧

教科等	指導事例	生命	共に	規範	偏見
国語	みんなにつたえよう (小1)		○		
	みんなとたのしく (小1)		○		
	すてきなことおしえて (小1)		○		
	わたしはレポーター (小4)		○		
	人と「もの」とのつき合い方 (小5)		○		
	表現「友達紹介」 (中3)		○		
社会	わたしの人権宣言 (小6)				○
	昔調べをしよう (小4)		○		
	多文化社会に生きる (中3)				○
算数・数学	空間図形への応用 (三平方の定理) (中3)		○		
理科	大地の変化 (中1)		○		
生活	見つけたことを教えあおう (小1)				
	町をたんけんしよう (小2)		○	○	
	いもいもパーティーをしよう (小1)		○		
音楽	ミュージックベルに親しもう (小3)		○		
	合唱の美しさを伝えよう (中3)		○		
図工	生き物をえがこう (小2)	○			
美術	工芸: CD ケース (中2)		○		
技術・家庭	木工加工 (中1)		○		
体育・保健体育	心のなやみ相談室を開こう (小5・保健)		○		
	心の健康 (ロールプレイング) (小6)		○		
	マット運動 (小6)		○		
	心身の発達と心の健康 (中1)				○
外国語	Living together (中3)		○		
	Silent Spring (中3)	○			
	Martin Luther King (中3)				○
道徳	生命尊重 (小全)	○			
	信頼・友情 (小4・5)		○		
	思いやり (小6)				○
	公正・公平 (小高)				○
	公徳心 (小全)			○	
	思いやりの心、公徳心 (中1)			○	

(2) 生命を尊重する態度を育成するための視点ごとの指導事例

「生命を尊重する態度を育成するための視点と指導の重点 (表3)」において示した有効な指導事例を、生命を尊重する態度を育成するための視点ごとに具体的にリーフレット上に掲載したものが、図1から図4 (32ページから35ページ) である。なお、これらの指導事例については、二つ以上の視点にかかる事例もあるが、明確な区分が難しい場合は、いずれか一方の視点に該当させてある。また、収集した事例の有効性を踏まえつつも校種を問わず広く学校全般で活用することができるよう、内容については研究部会で精査したり改善を加えたりして、より普遍性を高めてある。さらに、随所に人権教育資料センターで所蔵する「参考ビデオ教材」の併用を紹介したことにより、より一層、幼稚園や学校において、生命尊重の視点に立った人権教育の推進が期待される。

表3 生命を尊重する態度を育成するための視点と指導の重点

各表下段の◎については次ページ以降に指導事例を紹介している。 ■の指導事例については「人権教育プログラム」に掲載している。

	幼稚園	小学校（前期1～3年、後期4～6年）	中学校	高等学校・高等専門学校
発達段階 視点	人間を信頼し、尊重する心情を培い、互いに認め合おうとする態度の育成を図る。	偏見や差別の不合理性に気付かせるとともに、同和問題をはじめ様々な人権課題について正しい理解と認識を深めさせ、自他を尊重する心情や態度の育成を図る。	同和問題をはじめ様々な人権課題についての正しい理解と認識を深めさせ、自らの課題として偏見や差別の解消に努めることができる能力や態度の育成を図る。	同和問題をはじめ様々な人権課題についての正しい理解と認識を一層深めさせ、偏見や差別のない社会を実現しようとする能力や態度の育成を図る。
生命の大切さの理解	教師と共に身近な動植物に親しみをもって接することを通して、生命の尊さに気付かせ、生命を大切にすることの芽生えを育てる。 ◎身近な動植物とのかかわり ○植物や野菜の栽培	前期では自然や動植物などに直接触れ合うことを通じて優しい心を養うことが求められる。後期では自然の偉大さを理解させ、生命がかけがえないものであることを知り、自他の生命を尊重する心を育てる。 ◎道徳：生命がかけがえないものであることを知り、自他の生命を尊重する態度を育てる。 ○生活科・理科：飼育栽培活動	自他の生命を尊重する態度を身に付けさせるとともに、命の尊厳に気付かせ、命あるものは互いに支え合って生き、生かされていることに感謝の念をもつよう指導する。 ◎■道徳：「いじめ問題の解決に向けて」いじめは重大な人権問題であることを理解するとともに、互いを個人として尊重し、大切にすることを育てる。（平成16年）	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念などについて倫理的な見方・考え方を身に付けさせ、他者と共に生きる自己の生き方にかかわる課題として考えを深めさせる。 ◎保健：「現代社会と健康」応急手当の意義について学び、自他の生命を尊ぶ態度を育てる。
共に生きる心の育成	友達や先生など家族以外の人間関係がはぐくまれ、自分と他者の違いに気付き始める時期である。高齢者をはじめ地域の人々など自分の生活に関係の深い人に親しみをもたせるようにする。 ◎高齢者とかかわりがもてるような行事や活動 ○友達とかかわりの中で、思いを伝えたり、相手の思いに気付かせたりする活動	前期では身近にいる幼児や高齢者に目を向け、だれに対しても温かい心で接し親切にすることの大切さを指導する。後期にはだれに対しても、相手の立場に立って心のかもった接し方ができるようするとともに、異性に対しても正しい理解に配慮する。 ◎生活科：自分の成長を振り返り自他のかかわりに気付かせるとともに、これからの生活への意欲をもたせる。	社会福祉施設でのボランティア活動に取り組むなどよりよい社会の実現を求める気持ちが強くなっていく時期である。だれに対しても公正、公平に努めるよう指導する。 ◎社会科：「多文化社会に生きる」 ■総合的な学習の時間：『外国人』について正しい理解と認識を深め、異なる習慣・文化を尊重する態度を育てる。（平成17年）	同和問題をはじめ、様々な人権課題について正しい理解と認識を深めさせ、主体的に判断、行動し積極的に自己を生かしていけるよう指導の充実を図る。 ◎奉仕：社会に奉仕することの意義を学び、社会に貢献できる資質と態度をはぐくむ。
規範意識の形成	基本的な生活習慣を身に付けさせるとともに、他者とかかわり合いの中でやってよいことと悪いことを区別ができるように指導したりきまりの大切さに気付かせたりする。 ◎いろいろな遊びの中からルールの大切さに気付かせる。	前期には身近な出来事を通して、きまりを守る態度を育て、後期には公徳心や社会規範、法やきまりを守り権利と義務を大切にすることを身に付けさせる。 ◎「言葉遣いについて考える月間」を設定し、言語環境を整える。	自分たちの生活や権利を守るため、法やきまりを遵守することの大切さについて自覚を促し、社会の秩序と規律を自ら高めようとする意欲を育てよう指導する。 ◎■社会科：人権尊重について考えさせる。（平成17年）	基本的人権の保障について理解を深めさせ、法と規範などを考えさせ、民主社会において自ら生きる倫理について自覚を深めさせる。 ◎特別活動：健全育成にかかる都立高等学校特別講演会支援プログラム
偏見・差別意識の解消	日常においては人を傷つけてはいけないことを理解させる。だれに対しても、思いやりの心をもって行動しようとする態度を育てる。 ◎みんなと一緒に活動したいと思っている障害のある幼児の気持ちに気付かせる。 ○障害者への思いやりの気持ちを育てる手話教室やバリアフリー読書会などの体験活動	身近な偏見や差別に気付き、公平で公正な態度を養うことを通じて社会正義の自覚を深めさせる。前期では家庭や学校を取り巻く郷土に目を向けさせ、後期には国際理解と親善の心をもてるよう指導する。 ◎■総合的な学習の時間：ハンセン病の患者・回復者に対する偏見や差別の不合理性に気付かせるとともに、多くの人々が、偏見や差別の解消に努力してきたことを理解させる。（平成17年） ○道徳：お互いの違いを認め合い、仲よく生活することの大切さに気付かせる。	同和問題をはじめ様々な人権課題の歴史的・社会的背景について正しい認識を深めさせ、正義を重んじ、だれに対しても公正、公平にし、偏見や差別の解消に努める態度を育てる。 ◎■道徳：路上生活者に対しての正しい理解と認識を深めさせ、偏見・差別の解消に努める態度を育てる。（平成16年）	同和問題をはじめ様々な人権課題について正しい理解と認識をより一層深めさせ、偏見や差別のない社会を実現しようとする能力や態度を育てる。 ◎特別活動：女性に対する差別を始め、就職差別には様々な実態があることを理解し、就職の機会均等の保障と同和問題について理解する。 ■現代文：資料「原始女性は太陽であった」筆者の主張を読み取り、社会的背景について広く調べる学習を通して「男女平等参画社会」の実現に向けて考えさせる。（平成15年）

盲・ろう・養護学校及び小・中学校心身障害学級

児童・生徒等の障害の状態及び発達段階や特性等並びに地域や学校の実態を十分考慮して、児童・生徒等に「生きる力」と生命を尊重する態度を育成するよう、全教育活動を通して人権教育を推進する。

## 生命の大切さの理解

図 1

動植物等の自然との触れ合いを通して、生や死を見つめさせたり、生まれてきたことや生きていくことの意義について考えさせたりすることによって、生命の尊さや生きることへの自覚を深め、自他の生命を尊重できるようにする。

### 「身近な動植物とのかかわり」【幼稚園】

#### 人権教育の視点

身近な小動物や植物とのかかわりを通じて、その性質や特徴などに気付くとともに、命あるものの不思議さや大切さを感じ取る。

#### 活動事例

- ・小動物と一緒に遊んだり、えさを与えたりすることを通して、生き物への温かい感情の芽生えを引き出す。
- ・植物を育てることを通して、親しみや愛着をもつ。
- ・野菜の栽培を行い、収穫を喜び合う。



#### 参考ビデオ教材

「どんぐり森へ  
～ひとりにひとつのたからもの～」  
(株式会社ファティモ)

### 生命がかげがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する道徳の授業

主題名 **かけがえのない生命 高学年3-(2)生命尊重**

【小学校 道徳 高学年】

#### 人権教育の視点

生命がかげがえのないものであることに気付かせるとともに、自分の生命が多くの人によって大切にされていることを理解させ、自分も他の人の生命を大切にしていこうとする心情を育てる。

#### 参考資料

「たったひとつのたからもの」  
加藤浩美著 (文藝春秋社)

#### 〈一単位時間の指導計画〉

導 入	○資料を読むことを通して生命がかげがえのないものであることに気付く。
展 開	○資料を読み、生命には限りがあることについても理解する。 ・これから生きていく上で大切にすることを考える。 ・自分の生命が、多くの人によって守られてきたことに気付く。
ま と め	○本時を振り返り、自他の生命を尊重することの大切さを再認識する。

#### 児童の感想

- ・生きているのが当たり前感じていた。学習を通し、生きたくても生きられない人がいることも知った。時間を大切にしたい。
- ・自分を生んでくれたこと、育ててくれたことを家族に感謝したい。今後は自分が人のためにできることを考えていきたい。



### 「いじめ問題の解決に向けて」

～傍観者でいいのか～ 【中学校 道徳】

#### 人権教育の視点

いじめは人間の尊厳を奪う重大な人権問題である。いじめ問題の解決にはいじめられている側の心情を理解し、共感できることが必要である。自己中心的な考えから脱却し、互いを個人として尊重する態度を育成する。

#### 学習活動

- ・いじめは重大な人権問題であることを理解する。
- ・いじめられる側に立っていじめの問題を考える。
- ・傍観的態度を克服し、誰もが個人として尊重され、大切にされる学級・学校を実現しようとする。

参考資料 人権教育プログラム(学校教育編)平成16年3月 - 32

### 「現代社会と健康」

～応急手当の意義について～

【高等学校 保健】

#### 人権教育の視点

応急手当の意義について学び、自他の生命を尊重する態度を育てる。

#### 学習活動

自他の生命や身体を守り、不慮の事故災害に対応できる社会環境を作るために、一人一人が応急手当の手順や方法を身に付ける。



## 共に生きる心の育成

図 2

高齢者や障害者等、様々な地域の方々とのかかわりを通して、思いやりの心もち、互いに尊重し、共に豊かな社会を築いていこうと意欲的に行動することができるようにする。

### 自己肯定感や自信をもち希望をもって生活する力を育てる学習 (8)自分の成長

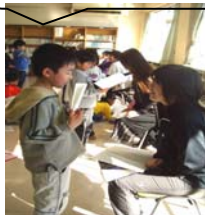
【小学校 生活科 第2学年】

#### 人権教育の視点

自分のよさや成長、自分を支えてくれる人たちの存在に気づき、自他を尊重する心情や態度をはぐくみ、これからの生活に意欲をもたせる。

#### 児童の感想

・自分のよいところがわかってよかった。  
・だれもがよいところがあるということがわかった。



〈単元の指導計画〉

<b>第一次</b>	○自分たんけんを始めよう ・できるようになったことや大きくなったことについて保護者、専科教諭、養護教諭、主事等にインタビューをすることを通して、自分の成長に関心をもつ。 【質問例】・入学したばかりの頃の自分は、どんな様子だったか。 ・一年前の自分と比べて、成長したところはどこか。
<b>第二次</b>	○自分たんけんをしよう ・自分たんけんの計画を立て、自分のこれまでの成長について調べ、自分の成長にかかわってくれた多くの人々について認識を深める。 【調べさせることの例】 できるようになったこと、得意なこと、大きくなる様子、小さい頃の様子、病気をしたこと 等 ・作品にまとめ、紹介し合う。
<b>第三次</b>	○自分の成長をふりかえろう ～成長を支えてくれた人に感謝の気持ちを伝える会を開こう～ ・多くの人々の支えにより自分が成長してきたことに気づき、感謝の気持ちを伝えるとともに、これからの生活に対する意欲を引き出す。

### 社会に奉仕することの意義を学び、社会に貢献できる資質と態度をはぐくむ

【高等学校 奉仕体験活動】

#### 人権教育の視点

奉仕に関する基礎的・基本的な知識を習得させ、活動の理念と意義を理解させるとともに、社会の求めに応じて活動し、社会の一員であること及び社会に役立つ喜びを体験的に学ぶことを通して、将来、社会に貢献できる資質を育成する。

#### 参考ビデオ教材

「高校生のボランティア学習マニュアル」  
 (日本青年奉仕協会)  
 「地域に生きるボランティア」  
 (東映株式会社)

〈単元の指導計画〉

<b>事前学習</b>	○障害者理解にかかわる事前指導を通して人権課題「障害者」に関心をもつ。 ・ビデオ視聴 ・講演会 ・調べ学習
<b>体験活動</b>	○体験的な学習を通して障害について正しい理解と認識を深める。 ・アイマスク体験 ・車イス体験 ・点字体験 ・手話体験 ○障害者福祉施設等において奉仕体験活動を行い、障害者と共に生きる社会の実現について考える。
<b>事後学習</b>	○障害者とかかわる事後指導を通し、奉仕体験の実践のまとめをする。 ・体験発表会 ・礼状作成 ○障害者への自発的な支援・奉仕活動を通し、社会に貢献しようとする意欲を高める。 ・交流会の実施 ・障害者スポーツの運営補助

### 「高齢者とかかわり」

【幼稚園】

#### 人権教育の視点

地域の高齢者との交流を通して、高齢者とかかわることの楽しさを味わい、親しみをもつ。

#### 活動事例

- ・高齢者施設を訪問して高齢者の方と話す。
- ・昔あそびを教えてもらい交流する。
- ・幼稚園のお楽しみ会に招待する。 等



#### 参考ビデオ教材

「ぼくがおじいちゃんて、おじいちゃんがぼく」  
 (株式会社学習研究社)

### 「多文化社会に生きる」

【中学校 社会科 第3学年】

#### 人権教育の視点

国際社会の中で、異文化を尊重し、異なる習慣・文化をもった人々と共に生きていこうとする態度を育てる。

#### 学習内容

- ・多文化社会に生きる
- ・日本と国際社会の結び付き 等

#### 参考ビデオ教材

「ソーテサワサワ」  
 ～人間の価値はみな同じ～  
 (信越放送株式会社)  
 「この街で暮らしたい」  
 ～外国人の人権を考える～  
 (法務局人権擁護局(財))

## 規範意識の形成

図 3

基本的な生活習慣やマナーを身に付けさせ、社会の一員であることの自覚を深めさせることにより、正義や公正を重んじ、正しい判断の基に行動できるようにする。

### 社会の一員としての自覚を深める学習

#### 「現代の民主政治とこれからの社会」 人間の尊重と日本国憲法の基本的原則

【中学校 社会科】

〈単元の指導計画〉

#### 人権教育の視点

人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深めさせるとともに、法の意義に着目させ、民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解させる。

<b>第一次</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人類が、基本的人権を獲得してきた過程について理解する。</li> <li>自由権と平等権の内容と意義を理解する。</li> <li>○現実の社会には、様々な差別が存在することに気付かせ、基本的人権を尊重することの意義を考える。</li> </ul>
<b>第二次</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○社会権の意義に気付くとともに、日本国憲法における社会権の考え方の理解を深める。</li> <li>○基本的人権を保障する様々な権利について考察する。</li> <li>○日本国民の義務について、その内容を深める。</li> <li>○公共の福祉についての考え方を深める。</li> <li>○様々な人権課題について調べ、その問題点をまとめる。</li> </ul>
<b>第三次</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的人権を尊重することの大切さについて認識を深めるとともに、これからの社会の在り方を考える。</li> </ul>

### 健全育成にかかる都立高等学校特別講演会支援プログラム

#### 「人の生命を奪うことは絶対に許されないこと」について啓発を図るための特別講義

【高等学校 特別活動】

〈一単位時間の指導計画〉

#### 人権教育の視点

正義感や公正さを重んじる心などの大切さについて理解させ、生徒の規範意識を高めて、社会生活の基本的なルールを身に付け、正しい判断の基に行動できる能力や態度を育成する。

非行防止・犯罪被害防止教育推進指導資料第2集－実践編－より

参考ビデオ教材  
「考えよう命の大切さ」  
(日本広報協会)

<b>導入</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(事前指導)</li> <li>○人の生命について考えたことを作文に書くことを通して、生命の大切さについて考える。</li> </ul>
<b>展開</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○犯罪被害者の家族の話(ビデオ視聴)、犯罪被害者の悲しみや、加害者に対する思い、憤りなどを話し合う。</li> <li>○犯罪被害者本人の立場になって、人の生命を奪ってしまう行為とは、どのようなことなのか話し合う。</li> <li>○犯罪を犯してしまうと、どのような罪に問われ、社会的責任を負うのか事例を通して学ぶ。</li> <li>○自分ももし、カッとってしまったら、どうすればよいのかロールプレイングを通して考える。</li> </ul>
<b>まとめ</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(事後指導)</li> <li>○人間性にあふれた質の高い生活を送れる社会を実現するために、社会で行われているボランティア活動について追究し、自分たちができるボランティア活動は何か考え、実践できることを考える。</li> </ul>

### 「友達とのかかわりを通して」

【幼稚園】

#### 人権教育の視点

集団生活や友達との遊びを通して、楽しく生活するためには様々なきまりが大切であることに気付かせるとともに、葛藤やつまずきも体験させ自己を抑制する力を身に付けさせる。

#### 活動事例

- 友達と楽しく生活する中で、きまりの大切さに気付かせ、それを守ろうとする態度を身に付けさせる。
- 地域の人や友達とのかかわりの中でよいことや悪いことがあることに気付かせ、考えながら行動する気持ちを育てる。

参考ビデオ教材 「きまりのないくに」  
(株式会社学習研究社)

### 「言葉遣いについて考える月間」の設定

【小学校 全学年】

#### 人権教育の視点

正しい言語環境の整備を行うことで、基本的な生活習慣を確立し、コミュニケーション能力を育てる。

#### 活動事例

- 「相手の名前を大切に呼ぼう」  
相手を大切に呼ぶ名前を呼び方を考え、互いを尊重する心を育てる。
- 「はい」「です。ます。」月間  
名前を呼ばれたら「はい」と返事をする。話すときには、語尾に「～です。ます。」をつけて丁寧に話す。
- 「あいさつ運動」  
全校であいさつ運動に取り組み、あいさつの大切さを理解するとともに、すすんであいさつをしようとする気持ちを育てる。



## 偏見・差別意識の解消

図 4

様々な人権課題について正しく理解し、相手の立場に立って考えさせるとともに、他の人を正しく理解し、偏見や差別意識の解消に努め、人権を尊重する態度を身に付けることができるようにする。

### 学習したことを伝え合い、互いにその成果を確かめ合うとともに、人権尊重の態度を育てる

「全生園から学んだことを伝えよう」

【小学校 第6学年 総合的な学習の時間】

#### 人権教育の視点

全生園の歴史、過去の人権問題について学んだことから、世の中に残る偏見・差別をなくすために、自分たちにできることは何かについて考える。ハンセン病回復者の方々と交流して考えたことを人に伝える活動を通して、偏見・差別意識の解消に向けた実践的態度を育てる。

ハンセン病への差別が起きた原因は、一つではないと分かりました。



考えたことをたくさんの人に伝えることで、まだ残っている差別をなくしたいです。

#### 〈単元の指導計画〉

第一次	○全生園の歴史を調べることを通して、ハンセン病に対する偏見に気付く。
第二次	○療養所入所者の手記等を読み、隔離されたハンセン病患者・回復者の気持ちを考える。 ○調べ学習を通して、ハンセン病患者・回復者への偏見や差別意識の解消に向けてどのような取組みが行われてきているかについて理解する。 ・ハンセン病に関する主な出来事について ・高松宮記念ハンセン病資料館について ・現在の国や地方公共団体の取組みについて ○各グループで調べた内容を発表し、理解を深める。
第三次	○偏見や差別をなくし、基本的人権を尊重するためにできることを話し合い、自分自身の考えをまとめる。

#### 参考ビデオ教材

「ハンセン病・剥奪された人権」(東映株式会社)

### 相手の立場を理解する心情と偏見や差別をなくすために努力しようとする心情を育てる道徳の時間

「偏見や差別のない社会を目指して」

4-(4)公正・公平

【中学校 第2学年 道徳】

#### 人権教育の視点

路上生活者の問題について認識を深めさせるとともに、路上生活者に対する差別的な行為が、いかに相手の人格を傷つけているかに気づき、相手の立場を理解する心情と、偏見や差別をなくすために努力しようとする態度を育てる。

#### 参考資料

人権教育プログラム(学校教育編)  
平成16年3月

参考ビデオ教材 「あしがらさん」  
(あしがらさん上映ネットワーク)

#### 〈一単位時間の指導計画〉

導入	○偏見や思い込みについて考える。 ○路上生活者に対し、自分が偏った見方をしたり、決め付けた見方をしたりしていないかを振り返る。
展開	○資料を読み、路上生活者に対する暴力行為について考える。 ○路上生活者の気持ちやその時の自分の行動について考え、話し合う。
まとめ	○資料を読み、路上生活者に対する偏見や差別意識について考える。 ○他の人に対する偏見や差別がないか振り返り、まとめる。 ○素直に自分の心と向き合うようにする。

路上生活者に対する問題意識をもたせるために、資料を読む際に、自分がその場に居合わせることを想定させる。生徒が、だれに対しても、公平にし、偏見や差別意識を解消していく心情が高まるようにさせる。

#### 「あの子がいると負けちゃうよね。」

障害のある友達とのかかわりを通して 【幼稚園】

#### 人権教育の視点

障害のある幼児とのかかわりを通して、仲間として気持ちに通じあう体験をさせることで、幼児が互いの違いに気づき、相手を尊重する心や思いやりの心を育てる。

#### 活動事例

- ・ルールを工夫し、みんなが楽しく遊べるようにするにはどうしたらよいかを考えさせる。
- ・保護者に、共に育ち合うことの大切さを伝える。

参考ビデオ教材 「いじめっ子ザルと正直カニさん」  
(アニメーション画房わ組)

#### 「身近な差別に気づき、人権意識を高めるホームルーム活動」

【高等学校 特別活動】

#### 人権教育の視点

女性に対する差別を始め、就職差別には様々な実態があることを理解するとともに、就職の機会均等の保障と同和問題について理解する。

#### 学習活動

- ・就職にかかわる偏見・差別について考える。
- ・履歴書(全国高等学校統一用紙)の新旧の様式を比較し、就職や採用について考える。
- ・偏見や差別の問題を自己の生き方とかわらせ考える。

◎イラストは東京都生活文化局「心の東京革命行動プラン」より引用

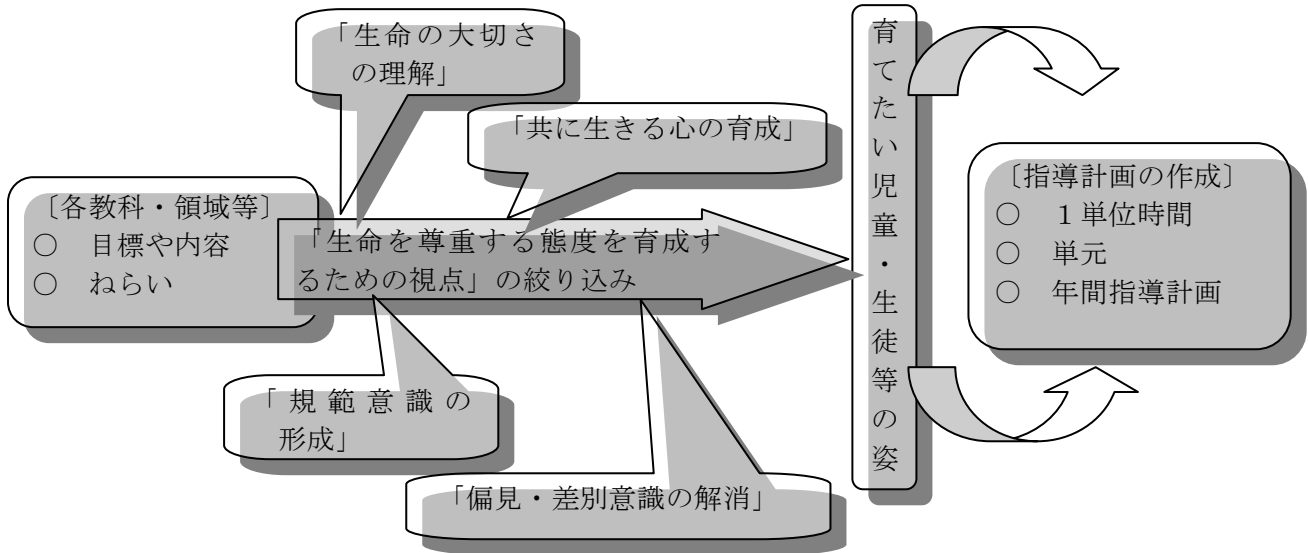
【参考ビデオ教材】 指導事例に掲載したビデオ教材は、併用すると効果的であり、人権教育資料センターにて貸出を行っている。

◇問い合わせ先◇03-5802-0306(東京都教職員研修センター 研修部 教育開発課内)

### 3 授業研究

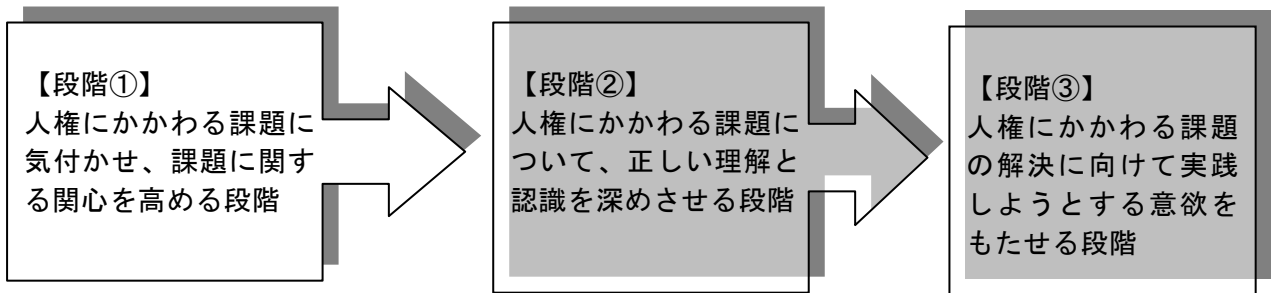
#### (1) 指導計画作成上の留意点

生命尊重の視点に立った人権教育の具現化を目指した指導計画を作成するにあたっては、各教科等の目標や内容と照らし合わせ、児童・生徒に生命を尊重する態度を育成するための視点を位置付けていく。その際に留意する点としては、単元や活動の中で、視点を絞って位置付けることである。このことにより、育てたい児童・生徒等の姿がより明確になり、指導内容をより具体的なものにすることができる。児童・生徒に生命を尊重する態度を育成するための視点の位置付けを各教科・領域の目標やねらいと関連させ、指導計画を作成して取り組むことで、生命尊重の視点に立った人権教育を推進することができる。



#### (2) 段階を踏まえた指導の工夫

児童・生徒に生命を尊重する態度を育成するための指導計画では、以下のような学習の段階を設定することが重要である。人権教育を進めるに当たっては、児童・生徒等の発達段階を踏まえ、これらの学習の過程を 1 単位の時間や、単元の指導計画において、系統的に指導することが大切である。



#### (3) 検証授業

- ・ 検証授業①（小学校第 6 学年・道徳）  
研究の視点「生命の大切さの理解」 } (37 ページから 40 ページに掲載)
- ・ 検証授業②（小学校第 5 学年・体育）  
研究の視点「共に生きる心の育成」 } (40 ページから 42 ページに掲載)
- ・ 検証授業③（小学校第 2 学年・道徳）  
研究の視点「規範意識の形成」、「偏見・差別意識の解消」 } (43 ページから 45 ページに掲載)



〔検証授業①〕

<p>道徳 小学校第6学年</p>	<p>すべての生命は、かけがえのないものであることに気付き、自分にとって大切であるだけでなく、自分を支えてくれる家族や友達などにとっても大切であることを実感し、生命の尊さや生きることへの自覚を深めることができる学習。</p> <p style="text-align: right;"><b>研究の視点〈生命の大切さの理解〉</b></p>
-----------------------	--

ねらい

第6学年 内容3－(2) 生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。

小学校高学年では、生命の誕生から死に至るまでの過程を理解することができる。それらを通して、生命のかけがえのなさを自覚できるようにすることが重要である。そして、人間の誕生の喜びや死の重さ、生きることの尊さを知ることから、自他の生命を尊重し力強く生きぬこうとする心を育てるとともに、生命に対する畏敬の念を育てることが大切である。

生命尊重の視点に立った人権教育との関連

研究の視点「生命の大切さの理解」

道徳の内容項目3－(2)「生命尊重」は、児童が「自他の生命」のかけがえのなさや大切さについて考える機会となり、生命尊重の精神を育成する人権教育のねらいに密接に関連している。本時は、限りある生命を力強く生きる子供の様子と、その成長を願い温かく見守る家族の思いを通して、「生命は、かけがえのない大切なものである。」ということについて理解を図ることができるような教材を選定した。

ここで「生命の大切さ」の理解を深めることは、自分の生命が大切にされているように、自分も他の人の生命を大切にしていこうとする心情が育つことにつながり、自他の生命を尊重する態度に結び付くものと考えられる。

具体的な指導の工夫

- ① 生命のかけがえのなさを深く理解させることに有効な教材を選び、提示する。
- ② 資料を身近なものとしてとらえることができるように、写真と読み物資料を効果的に提示する。
- ③ これから生きていく上で大切にすることを、自分のこととして考えることができるように、資料だけでなく、本資料を読んだ同年代の児童の感想を提示するとともに、友達の発表を聞く場面を設定する。

本時について（1時間扱い）

(1) ねらい

すべての生命はかけがえのないものであることに気付き、自他の生命を尊重し力強く生きぬこうとする心情を育てる。

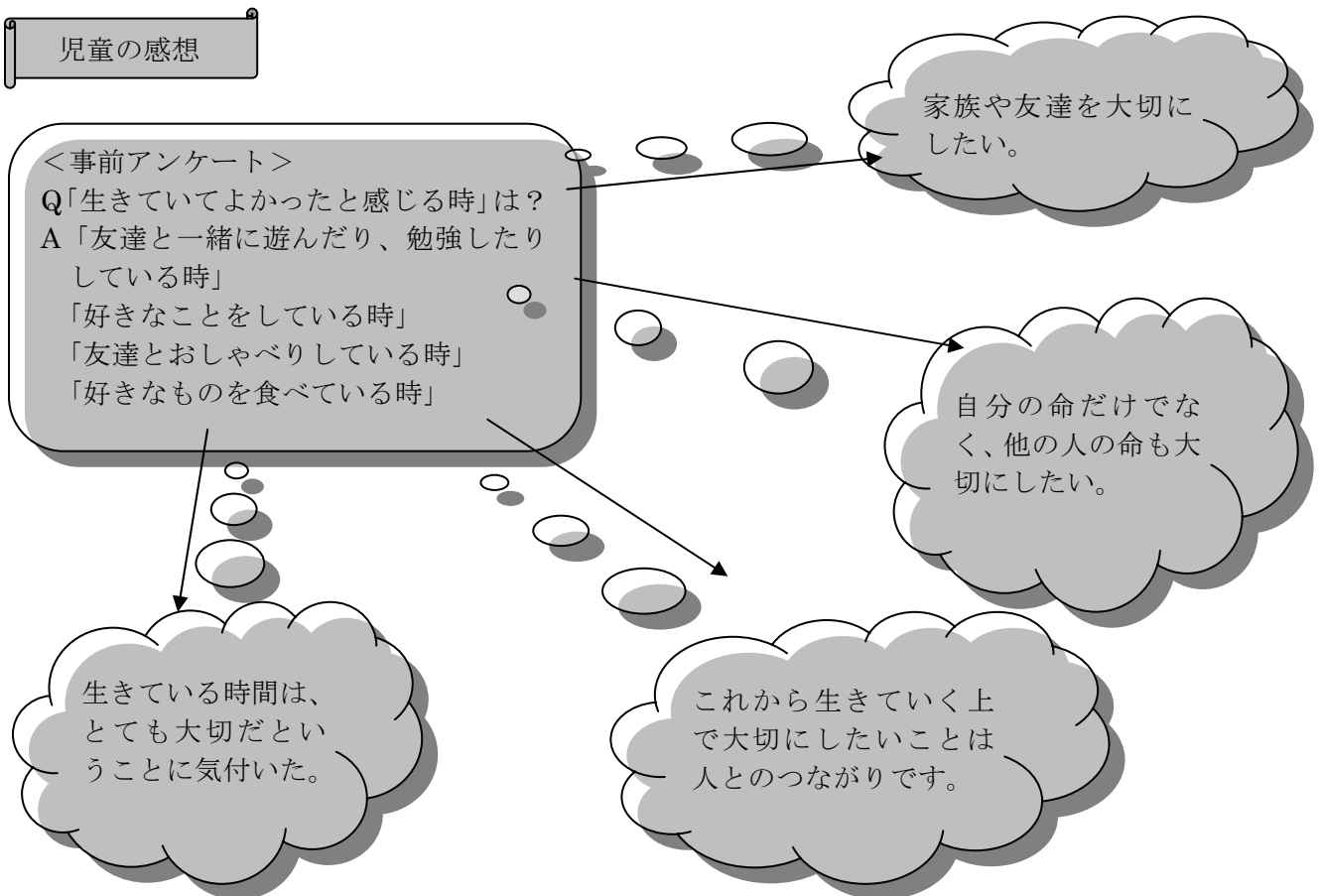


		<p>た。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わたしにも支えてくれる家族がいることに気がきました。そのことを大切に思いながら、いろいろなことに挑戦していきたいと思います。</li> </ul>	<p>◇自分の生命の大切さについて考えることができるように、本時の授業の振り返りとともに、同年代の児童の資料に関する感想を紹介する。</p> <p>◆これから生きていく上で、自分が大切にしていきたいことを考えようとしている。(ワークシート記述・発言)</p>
終末	エピローグを読み、本時を振り返る。	○エピローグに書かれている、お母さんの思いを読みますので聞いてください。	◇生命は限りあるものであり、その限りある生命を力強く生きることの素晴らしさに気付かせる。

(3) 評価

すべての生命はかけがえのないものであることに気づき、自他の生命を尊重し力強く生きぬこうとする心情が育ったか。

児童の感想



※吹き出しの内容は授業後の児童の感想から抜粋した。

研究の視点「生命の大切さの理解」における検証授業①の成果

1 生命のかけがえのなさについての気付き

本時では、様々な道徳の副教材や書籍等に掲載されている作品等から、生命のかけがえのなさを深く理解させるために有効な資料を選定するとともに、児童がその資料の読みをふくらませ、具体的な場面を創造しながら登場人物の心情を深く考えることができるように、写真を提示した。このことにより、児童は「生きている時間を大切にしたい。」等、限りある生命に思いを至らせ、生命のかけがえのなさについて気付いたことが伺われた。

2 自他の生命を尊重しようとする心情の高まり

本時では、資料を読んだ後、同じ資料を読んだ同年代の児童が家族とのかかわりに気付いたことを表した感想を提示するとともに、互いの感想を話し合う場面を設定した。このことにより、児童は自分の感想や気付きと他の児童の意見や感想とを比較することによって、「家族や友達を大切にしたい。」「自分の命だけでなく、他の人の命も大切にしたい。」などの感想が見られ、生命の大切さへの気付きを広げたことが伺われた。

〔検証授業②〕

体育 小学校第5学年	心の発達及び不安、悩みへの対処の仕方について知り、周りの人へ感謝の気持ちを持ち、相手の立場に立って心をこめて接しようとする態度を育てる学習。 <b>研究の視点&lt;共に生きる心の育成&gt;</b>
---------------	---

ねらい

- ・心の発達及び不安、悩みへの対処の仕方について、関心をもって課題に取り組み、適切な対処方法を考え自分の生活を改善しようとする。(運動や健康・安全への関心・意欲・態度)
- ・心の発達及び不安、悩みへの対処の仕方について、資料や友達との話し合いを通して、考えたり判断したりする。(運動や健康・安全についての思考・判断)
- ・心の発達及び不安、悩みへの対処の方法について知る。(健康・安全についての知識・理解)

生命尊重の視点に立った人権教育との関連

研究の視点「共に生きる心の育成」

体育(保健領域)「心の健康」では、心は人とのかかわりを通して発達してきたこと及び不安、悩みへの対処の仕方には、大人や友達に相談する、仲間と遊ぶ、運動をするなど、いろいろな方法があることを学ぶ。

「共に生きる心の育成」を図るために、小学校高学年では、相手の立場に立って心をこめた接し方ができるようにすることが大切であると考えます。

「心の健康」の学習において、主に以下の2点について児童が学ぶことで、相手の立場に立って心をこめて接しようとする態度を育てることができ、共に生きる心を育成することにつながると考えた。

- ①これまでの自分の心の発達及び不安、悩みへの対処には、周りの人とのかかわりが欠かせないものであったことを知り、周りの人への感謝の気持ちをもつこと。
- ②自分の不安、悩みを友達に相談して解決するだけでなく、友達の不安、悩みについても、親身になって考え共に解決に向けて努力すること。



具体的な指導の工夫

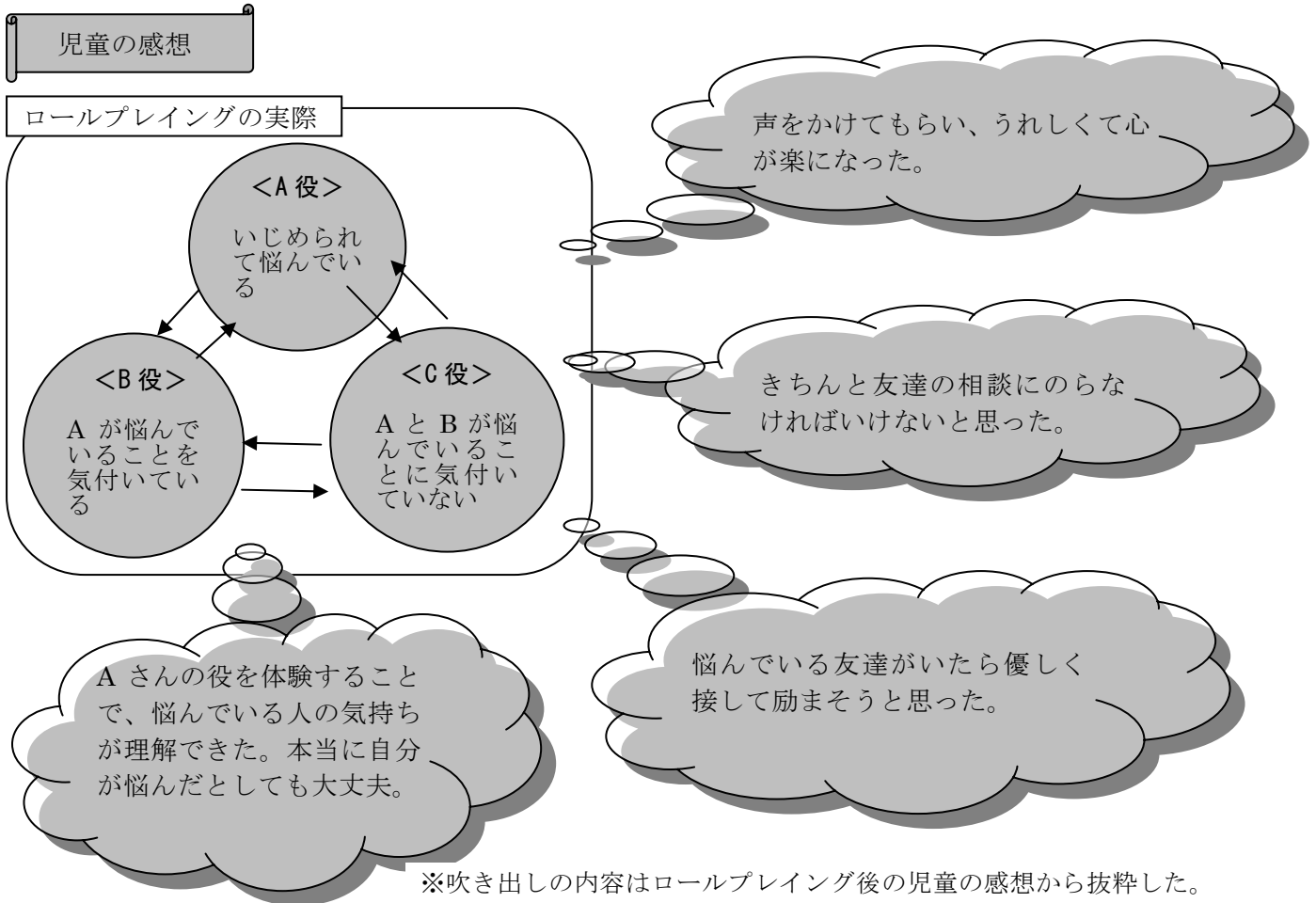
- ① よいところを見付ける活動の設定  
自分のよいところを見つめ直し、友達に感謝する気持ちをもたせるために、友達のよいところを見付け、カードに書いて渡す活動を設定した。
- ② ロールプレイングの実施  
相手の立場に立って心をこめて接しようとする態度を育てるために、親身になって友達の不安、悩みを解決しようと考えることができるような場面のロールプレイングを行う活動を設定した。

本時について（4時間扱い）

- (1) ねらい
  - ① 体育科のねらい
    - ・自分や友達の不安や悩みを解決し、心が落ち着く方法を実践することができる。
    - ・いろいろな解決方法の中から自分にあった方法で対処できることが分かる。
    - ・不安、悩みがあるときに、前向きに向き合っていこうという気持ちをもつことができる。
  - ② 生命尊重の視点に立った人権尊重のねらい（共に生きる心の育成）
    - ・自分や相手を大切に、不安、悩みを解決しようとするすることができる。
- (2) 展開（4／4時間目） 不安、悩みへの対処 「不安やなやみを軽くしよう。」

学習活動	◇教師の働きかけ ☆生命尊重の視点に立った人権教育にかかわる留意点 ◆評価（評価方法）
1 相手の気持ちになって行動することの大切さを確認し、疑似体験（ロールプレイング）をする。	☆親身になって悩みを解決する方法を考えることが大切であることを思い起こさせる。
2 ロールプレイングを行って、友達に相談したり、相談されたりした感想を書き、発表をする。	☆不安、悩みは誰かに相談することで気持ちが楽になることに気付かせる。 ☆友達の相談にのることで、自分も役に立っているという思いになることに気付かせる。 ◆不安、悩みに対処するよりよい方法を考え、意見を言おうとしている。 →ワークシート記述、発言の様子を観察
3 体ほぐしの運動を行い、運動を通して仲間と豊かにかかわる楽しさを体験し、仲間のよさを認め合う経験をする。互いの体の様子に気付き合うようなペアでのストレッチングを行う。 例) ペアでの肩たたきや肩もみなど	◇二人組以上で、心と体をリラックスさせられるような体ほぐしを行わせる。 ☆相手が心地よいようにやってあげて伝える。
4 「心の健康」の学習を行って、学んだことやこれからの生活に学んだことをどのように生かしていくかについて書く。	◇「誰にでも不安、悩みは表れる可能性があること。不安、悩みは自分自身や周りの人とかかわることで解決する場合があること。相談にのってもらったり、相談にのったりすることが大切であること。不安、悩みに前向きに対処しようという気持ちをもつことが大切であること。」を思い出させる。 ◆不安、悩みへの自分に合った対処法やよりよいコミュニケーションの取り方を生活に当てはめて考えて

	いる。 →ワークシート記述 ◆自分に合った不安、悩みへの対処方法やよりよいコミュニケーションの取り方が分かる。 →ワークシート記述
--	---



研究の視点「共に生きる心の育成」における検証授業②の成果

1 周囲への感謝の気持ち

本時では、友達によさに気付かせるとともに、友達からの意見を通じて自分の大切さに気付かせることをねらいとして、児童が互いのよいところを見付ける活動を設定した。活動では、よかったところが書かれたカードを受け取る相手の立場に立って言葉を書こうとしたり、日常の具体的な場面をとらえて書こうとする児童の姿が見られた。それぞれのよいところを書いたカードを交換することにより、多くの児童が自分を肯定的にとらえるとともに、自分のよさを認めてくれた友達への感謝の気持ちをもったことが伺われた。

2 相手の立場に立って考えようとする心情の高まり

本時では、相手の立場に立って人に接することの大切さに気付かせるために、ロールプレイングを活動に取り入れた。活動を通して、一人一人の児童が、相手の立場に立ってどのような声をかけたらよいのか、また、自分が相手の立場であった場合の受け止め方はどうなのかについて、真剣に考える姿が見られ、実際に「声をかけてもらい、嬉しくて心が楽になった。」と述べる児童が見られるなど、相手の立場に立って考えようとする心情の高まりが見られた。

〔検証授業③〕

道徳 小学校第2学年	お互いの違いを認め合い仲よく生活することの大切さに気付かせ、よいと思うことをすすんで行おうとする意欲と態度を育てる学習。 <b>研究の視点</b> 〈規範意識の形成〉〈偏見・差別意識の解消〉
---------------	--

ねらい

第2学年 内容 1-(3) よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことをすすんで行う。

小学校低学年は、特に集団生活に慣れていないために、引っ込み思案になったり、ものおじしたりすることも少なくない。行ってよいことと悪いことが区別できる判断力を養うとともに、よいと思ったことは、遠慮しないですすんで行えるよう励まし、援助し、指導していくことが大切である。

生命尊重の視点に立った人権教育との関連

研究の視点①「規範意識の形成」

よいことと悪いことの判断力を養うことや、よいと思ったことを遠慮なくすすんで行えるよう日ごろから支援・指導していく。互いの違いを認め、個性として尊重し合うことの大切さを理解した上で「いじめ」等の不正な言動を正す態度を育てることは、「規範意識の形成」を図ることにつながり、生命尊重の視点に立った人権教育のねらいと一致すると考えた。

研究の視点②「偏見・差別意識の解消」

児童の中には、「男だから」「女だから」とこだわったりする姿が見られる。互いの違いを認めながら、性別にかかわらず相互に尊重し合い助け合って生活することの大切さを十分に理解させ、正しく判断できるようにさせることが必要である。人にはそれぞれ個性があることに気付くことからお互いのよさを見だし、肯定的に理解できるようにすることは「偏見・差別意識の解消」につながり、生命尊重の視点に立った人権教育のねらいと一致すると考えた。

具体的な指導の工夫

- ① 主人公の、いじめられて悲しい気持ち、言い返せなくて悔しい気持ち、また友達の助けによって自分の思いを伝えることができ嬉しい気持ちを共感的に理解させるために、役割演技を取り入れた。その際、具体的にその場面の状況をイメージできるように場面設定を絵に表して提示したり、登場人物のペープサートを児童に持たせて発言させたりした。
- ② よいと思うことをすすんで行った登場人物の行動のよさや、違いを認め合って生活することの大切さを、児童に自覚させるため、学習の終末に、それぞれの登場人物に手紙を書く活動を設定した。
- ③ 思い込みや偏見が、いじめの原因となることがあることに気付くことができるような資料を選定し、思い込みや偏見・差別意識の不合理性に気付かせるようにした。

本時について(1時間扱い)

(1) ねらい

- ・よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことをすすんで行おうとする意欲と態度を養う。

(2) 展 開

学 習 活 動		○主な発問	◇教師の働きかけ ☆人権教育にかかわる留意点 ◆評価(評価方法)
導 入	1 自分と友達の違いについて思ったことを発表する。	○自分と友達と違うと思ったことはどんなことですか。	◇自分と友達の違いを意識させ、資料への関心を高める。
展 開	2 資料を通して、「人との違い」について話し合う。	○なぜ、主人公の男の子はピンク色の花の絵を描いて、からかわれたと思いますか。  ○友達がからかわれているとき、助けてあげることができますか。  ○思い切って「ぼくはピンク色の花が大好きなんだ。」と言い返した主人公は、どんな気持ちだったでしょう。	☆友達が、自分たちと好みが違うという理由で主人公をからかってしまったことに気付かせる。 ◇ペープサートを持って発言をさせる。 ☆泣きそうになりながら、下をむいて黙っていた様子から、主人公の悔しい気持ちに共感させる。 ☆物の色や柄を見て「女の子のもの」「男の子のもの」と決めつけたり、「男だから」「女だから」とこだわったりすることはよくないことに気付かせ、正しい判断ができるよう、考えさせる。 ◆助けてくれた友達の気持ちに気付かせる。(発言・つぶやき・行動観察) ☆「いじめ」等の不正な言動を正する態度が大切であることに気付かせる。 ☆周りの友達の言動に左右されるのではなく、自分の思いをきちんと伝え、行動することの大切さに気付かせる。
	3 それぞれの登場人物に手紙を書く。	○今までの自分の生活を思い出して、登場人物に手紙を書きましょう。	◆人にはそれぞれ違いがあり、違いを認め合って仲よく生活することのよさに気付いている。(手紙)

(3) 評価

- ・よいと思うことをすすんで行おうとすることのよさに気づき、実践しようとする意欲は高まったか。

児童の感想

「あははは。男のくせにピンク色の花の絵なんて描いているよ。」

「素敵に描けているじゃないか。男の子がピンクの花を描いて、なにがおかしいんだい。」

よく勇気を出して言えたね。

色なんて男とか女とか関係ないよ。

自分がやられて嫌なことをやると友達の気持ちが暗くなっちゃうよ。もう絶対いじわるしちゃいけないよ。

いじめられている子の気持ちが分かったんだね。これからも、思い切って言ってみてね。

※吹き出しの内容は、児童が登場人物に書いた手紙から抜粋した。

研究の視点「規範意識の形成」「偏見・差別の解消」における検証授業③の成果

1 いじめられている登場人物の心情の理解

本時では、ペープサートを活用して、いじめられている主人公の気持ちを自分の言葉として表現することを通じて、いじめられている主人公の気持ちを深く理解させた。ペープサートを活用することで、児童はより主人公の気持ちに近づいて言葉を考えようとしたことが伺われた。

2 いじめは絶対にしてはいけないという意識の高まり

本時では、資料を読んだ後、いじめられていた主人公といじめていた友達に対して、手紙を書く活動を取り入れた。手紙を書く過程では、登場人物の気持ちを考えながら、児童一人一人の考えが引き出され、「自分がやられて嫌なことをやると（相手の）友達も暗くなってしまう。絶対にいじわるをしちゃいけないよ。」「いじめられている子の気持ちが分かったんだね。」等、登場人物の心情を配慮しながら、いじめは絶対にしてはいけないという意識の高まりが多くの子童にあったことが伺われた。

3 思い込みによる偏見が相手を傷つけることにもつながることへの気付き

本時では、男子の登場人物がピンク色を使って絵を描いていたことをとがめられ、いじめられることにつながった内容の資料を利用した。児童の書いた手紙の中には「色なんて男とか女とか関係ないよ。」と、色にかかわる「男だから」「女だから」といった思い込みや偏見に気付いた児童があったことも伺われ、思い込みや偏見が相手を傷つけることにもつながることや、思い込みや偏見の不合理性についての気付きを引き出すことができた。

○ 検証授業の考察

それぞれの検証授業では、生命を尊重する視点として明らかにした「生命の大切さの理解」「共に生きる心の育成」「規範意識の形成」「偏見・差別意識の解消」を、授業における指導の重点として位置付けることによって、相手の存在に対する認識を深めた児童の姿を見出すことができた。また、生命の大切さに気付かせる教材を活用することによって、生きることの大切さと他の人とのかかわりの中で支えられる命について、多くの児童が気付くことができた。

## IV 研究の成果と課題

### 1 研究の成果

#### (1) 生命を尊重する態度を育成するための視点の明確化

- ① 児童・生徒に生命を尊重する態度を育成するための視点として、「生命の大切さの理解」「共に生きる心の育成」「規範意識の形成」「偏見・差別意識の解消」の4点を明確にした。
- ② これらの視点を、指導の重点として指導計画に位置付けることにより、全教育活動を通じた人権教育において、生命を尊重する態度を育成するための指導を、より有効なものとするができるようになる。

#### (2) 生命を尊重する態度を育成するために有効な指導事例の提示

- ① 生命を尊重する態度を育成するための視点における各学校段階ごとの系統性を踏まえ、人権教育プログラムにおける実践・指導事例や人権尊重教育推進校を中心とした各学校における実践事例を整理して示した。
- ② 指導事例を具体的に示したことにより、各学校が生命を尊重する態度を育成するための教育活動を具体的に推進する際の参考とすることができる。

#### (3) 生命を尊重する態度を育成するためのビデオ教材を活用した学習指導案の作成

- ① 指導事例において紹介した「参考ビデオ教材」については、別途、ビデオ教材を活用した学習指導案を作成した。
- ② 今後、学校関係者をはじめとする貸出希望者に学習指導案を提供することにより、ビデオ教材を活用した学習指導の充実に資することができる。

### 2 今後の課題

#### (1) 児童・生徒の生命を尊重する態度を育成するための指導の系統性と工夫の明確化

- ① 各学校における指導事例をさらに収集し、「生命を尊重する態度を育成するための視点」ごとに分類して示すことにより、児童・生徒の生命を尊重する態度を育成するための指導の系統性を明らかにする。
- ② 各学校における指導事例を「生命を尊重する態度を育成するための視点」ごとに分類して示した指導事例の分析を通して、生命を尊重する態度を育成するための指導の工夫を明らかにする。

#### (2) 児童・生徒の生命を尊重する態度を育成するための指導計画の開発

- ① 各学校の指導事例を参考に、生命を尊重する態度を育成するための指導の系統性を踏まえた人権教育の年間指導計画の例を開発する。
- ② 生命を尊重する態度を育成するための指導の工夫としての人権教育ビデオ教材を活用を取り入れた各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間における人権教育の指導計画の例を開発する。